

# 週刊 NEWSLETTER

## データサイエンティスト

### 保健医療分野でも育成

共通教育センター 水本 豪教授



独自プログラムでデジタル時代に対応

数理・データサイエンス・AIは、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」とも言われています。政府の「AI戦略2019」では、2025年度までにすべての大学・高専生が数理・データサイエンス・AIに関する初級レベルの知識や技術を習得するとともに、適切に理解し活用するといったリテラシーレベルでの能力を身につけることを目標にしています。

こうした背景を踏まえ、本学でも保健医療分野のデータサイエンティスト育成に向けた授業科目の整備を行い、2023年度に「熊保大 保健医療データサイエンティスト育成プログラム」がスタートしました。文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」へ申請予定です。

プログラムは1、2年次に配当される授業科目（共通教育センター・竹永、向井、山鹿、水本が担当）で構成されています。まず、「データ駆動型社会」の中でデータサイエンス・AIがどのように活用されているのかを知り、統計学の内容を含むデータサイエンス・AIの手法、関連するリスク、セキュリティ、倫理の問題など、数理・データサイエンス・AIの基盤を幅広く学びます。

また、学んだ内容をそれぞれの専門領域に繋がられるよう、実際の社会課題や実データを用いた実践的な演習を複数の授業科目で導入しています。さらに、令和6年度入学生からはプログラム修了者に対し修了証を交付します。

一方で、数理・データサイエンス・AIに関連した教職員対象の企画も引き続き予定しています。本学における数理・データサイエンス・AI教育に対し、より一層のご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。



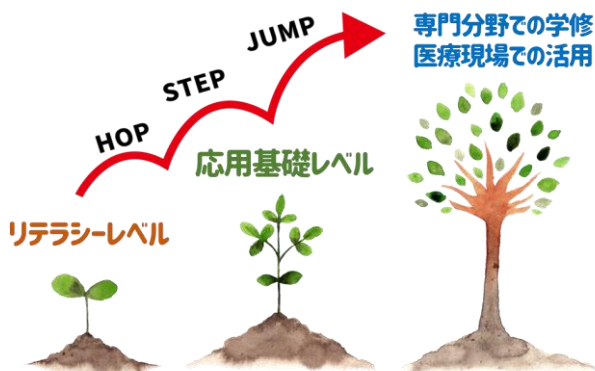
保健・データサイエンスとは、現代の「読み・書き・そろばん」とも言われており、政府の「AI戦略2019」では、2025年度までにすべての大学・高専生がリテラシーレベルの知識と技術を身につけることを目標にしています。こうした背景を踏まえ、熊本保健科学大学では、保健医療分野のデータサイエンティストを育成するプログラムを開発しています。このプログラムを通して、データサイエンス・AIに関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、身につけた知識と技術をそれぞれ専門分野に応用し、各分野の課題解決に貢献できる人材の育成を目指します。

保健医療分野の課題解決力を養う2つのステップ

<p><b>リテラシーレベル</b></p> <p>コンピュータでデータサイエンス・AIを用いた課題解決や問題発見に活用する人材を育成します。</p> <p>【主な講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会（データ駆動型社会）の現状</li> <li>課題解決のためのデータサイエンス・AI</li> <li>様々な環境でのデータ利用と倫理</li> <li>データの取得や整理・加工の実際</li> <li>データ駆動型社会におけるリスク</li> <li>データ駆動型社会におけるセキュリティと倫理</li> <li>実データや実課題を用いた演習</li> </ul>	<p><b>応用基礎レベル</b></p> <p>データサイエンスやAIに関する技術を用いた実用スキルを身につけた人材を育成します。</p> <p>【主な講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統計学、数学についての基礎的知識</li> <li>データ駆動型のためのアルゴリズム、プログラムの開発</li> <li>データサイエンス・AI活用における分析設計</li> <li>機械学習、深層学習の基礎と構築</li> <li>実データや実課題からの課題解決演習</li> </ul>
--	---

熊本保健科学大学

「熊保大保健医療データサイエンティスト育成プログラム」のパネルレット



本学プログラムのイメージ（パンフレットより）

## 看護学科・岡教授に厚生労働大臣表彰 公衆衛生事業で献身的活動

令和5年度の公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰の被表彰者が6日（火）、厚生労働省から発表され、看護学科の岡順子教授が選ばれました。

本表彰は、多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続け、その功績が特に顕著で、他の模範となる人に贈るもので、今年度は126個人・6団体が選ばれました。岡教授は、熊本県の職員として一貫して保

健医療行政に携わってきました。今回の表彰について岡教授は「行政保健師として、住民ファーストで保健活動に従事する中、これまで出会った多くの方々に感謝し、これから教育を通じて保健師活動の魅力を伝えていきたい」と感謝を口にしていました。岡教授への伝達式は、3月中に熊本県庁で予定されています。

（入試・広報課）



# ピア・サポら入学前の疑問に対応

## 「サポートQ&Aセッション」初開催

総合型および学校推薦型選抜合格者を対象とした「入学前サポートQ&Aセッション」を7日（水）、オンライン形式で行い、76人の合格者が参加しました。入学後のイメージをより明確にし、早めに準備を進めてもらおうと、初めて企画しました。

LL/PC教室とI202S講義室では、パソコンを前にピア・サポーター26人と教職員10人がスタンバイ。渡辺雄一学部長のあいさつに続き、ピア・サポーター、学友会、アカデミックスキル支援センターの各担当者が、それぞれの組織の概要について説明しました。

引き続き行われた学科・専攻ごとの分科会では、キャンパスライフの様子やアドバイスからなる、ピア・サポーター制作の動画を視聴した後、Q&Aセッションに移りました。開始時は緊張気味だった合格者も、ピア・サポーターの巧みなファシリテートのおかげで次第に気持ちがほぐれた様子。大学での勉強内容、昼食、ファッション、アルバイト、サークル活動、一人暮らしのコツ、交通手

段など多岐にわたる質問が寄せられ、笑顔の中で活発な質疑応答が行われました。

（学生相談・修学サポートセンター）



オンライン上で総合型、学校推薦型選抜合格者に対応するピア・サポーターたち



## 『言語聴覚士国家試験マスターノート』

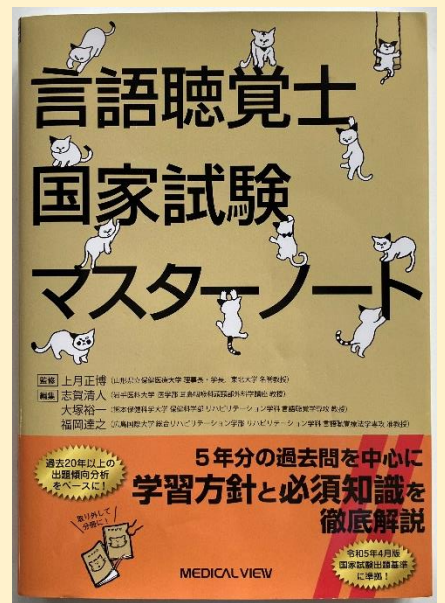
上月正博監修、志賀清人・大塚裕一・福岡達之編集

（メジカルビュー社）

昨年12月に発刊。言語聴覚士国家試験を目指す人たちにとって頼もしい助っ人になるかもしれません。国家試験に照準を合わせた本書は600円を超える分厚さですが、「基礎編」（384円）と「専門編」（240円）の2分冊の形を取り、分離して使うことができます。内容も最新の「言語聴覚士国家試験出題基準」に準拠した章立てで、出題範囲の全てを基礎編、専門編の計10章でカバーしています。

編集はリハビリテーション学科言語聴覚学専攻の大塚裕一教授ら3人が担当。大塚教授によると、過去5年間の国家試験問題を各分野の専門家が分析し、出題傾向を示すとともに、学習の方針を分かりやすく示しているということです。さらに、ほとんどの記述を要点まとめ型の箇条書きとしているのも大きな特徴です。図表をふんだんに入れ、従来の同種テキストにない「読みやすさ」を実現しました。

執筆陣には大塚教授のほか、言語聴覚学専攻の山田和慶教授（臨床神経学）、井崎基博准教授（認知・学習心理学、心理測定法）、宮本恵美准教授（失語・高次脳機能障害＝失語症）、松尾朗講師（言語聴覚障害総論）も名を連ねています。大塚教授は「国家試験に特化し、すべての範囲を網羅して解説するテキストはこれまでなかった。（知識が）ビジュアル的に入って読みやすいテキストとなり、学生にも使いやすいのではないか」と話していました。（税込み6,800円）



週間行事予定（2月20日～26日）

<p>2 / 22 (木)</p>	<p>西日本短期大学附属高校来学 事務職員対象研修会 「内部監査室の業務・役割について」 安全運転講習</p> <p>(13:00～ 1500M講義室) (15:00～ 1300L講義室) (16:30～ 1300L講義室)</p>
<p>2 / 24 (土)</p>	<p>大学院選抜（一般/社会人Ⅱ期）</p>